

第六章 建設

第一節 道路橋梁の開設

一、道路

町内を通る道路は、国道・県道・町道の三種に分かれる。

二級国道西条徳島線は、徳島から石井を経て、八本松で本町に入り、ほぼ東西に本町中央部を通って追分で県道西麻植下浦線と合し川島町へ向う。幅員概ね五メートルで延長約六、八キロである。八本松・麻植塚・鴨島ではその一部が舗装されている。

最近車輛の大型化と激増に伴い、本県の幹線であるこの道路は、いたるところ交通難を現出し、本町内でも八本松・麻植塚・中塚・鴨島町などでは、大型車の対交不能箇所があつてしばしば立ち往生の車の列を作る状態である。

国・県では新国道西条徳島線の建設が数年前から取りあげられ、年次計画で順次開通しつつある。本町内では八本松・市瀬間が昭和三四年度事業として建設され、市瀬・内原・中島間が昭和三五、六年度事業として建設された。これは幅員九 m （全幅一〇 m ）、全線舗装の近代道路で、交通難の解消、産業経済の発展に一大飛躍をもたらされるものと大きな期待がもたれている。

県道は本町の南部及び北部より東西に走る二線が幹線となり、これら県道とその他の地域をほぼ南北に

結ぶ数本の助線道路とからなっており、その路線名・幅員・延長は第一表のとおりである。

これら県道を幹線とし、その間には町道が東西南北に網目のように開通し、町内の往来はきわめて便利でその概況は第二表に示されてある。

二、橋梁

町内における県道に架設された橋梁は、第三表に示すとおりで、この表でわかるように構造については各種の様式があるが、鉄筋コンクリートまたは石材による永久橋ばかりで、木橋は一つもない。

これが建設年代をみると、不詳のものもあるが、その大部分が昭和期以後のものであり、特に昭和三〇年以後に架設されたものが多い。

町道にかかる橋梁についての概況は第四表に掲げておいたが、橋梁総数一〇四のうち永久橋は八七で約八四％、木橋は一七で約一六％である。この表は昭和三三年度調査資料によっているが、木橋についてはその老朽化による使用不能とともに漸次永久橋にかけ変えられているので、近い将来に木橋はなくなって全部永久橋になるものと考えられる。

なお主要道鴨島三本松線に、吉野川で架設された中央橋は、北岸阿波郡ならびに板野郡西部と本町を結ぶ重要な橋梁で、総工費二億三千七百万円、昭和二五年一月架設事務所を本町に置き三月三十一日着工、昭和二八年三月三十一日に竣工開通したものであり、阿北地域の住民の生活や産業経済に与える利益は測り知れないものがある。その型式は、橋型ローレン鉄車橋で、斯界の権威五名（九大教授三瀬幸三郎・早大教授青木楠男・神戸市長工博原口忠二郎・日大教授鈴木雅次・中国四国地方建設局長末松栄）が合同で設計したものである。総延長八二〇・六 m 、幅員六 m の偉容はすばらしい。